

福証IRフェア

2023年2月14日



西鉄天神大牟田線連続立体交差事業（福岡県）



人と人をつなぐ。それはやがて、景色になる。
株式会社富士ピー・エス
証券コード：1848

会社紹介動画

会社紹介

会社概要

プレストレストコンクリート（P C）技術による 土木・建築の建設業

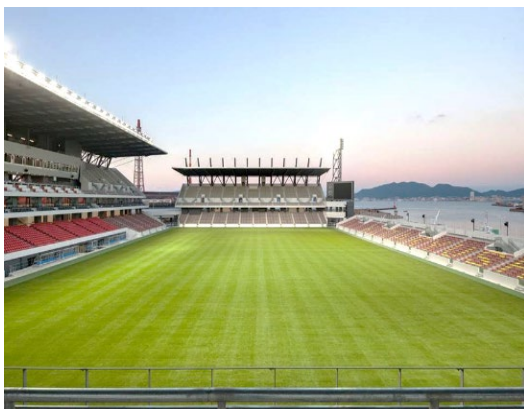
- 創 立：1954年3月
- 資 本 金：23億7,927万円
- 本 社：福岡市中央区薬院一丁目13番8号
- 上 場：東証スタンダード、福証（証券コード：1848）
- 取 引 先：国土交通省、都道府県市町村、高速道路各社、
鉄道・運輸機構、J R各社、U R、民間企業 他
- 従業員数：439名（2022年3月末現在）

会社概要 (セグメント)

建築事業 23%

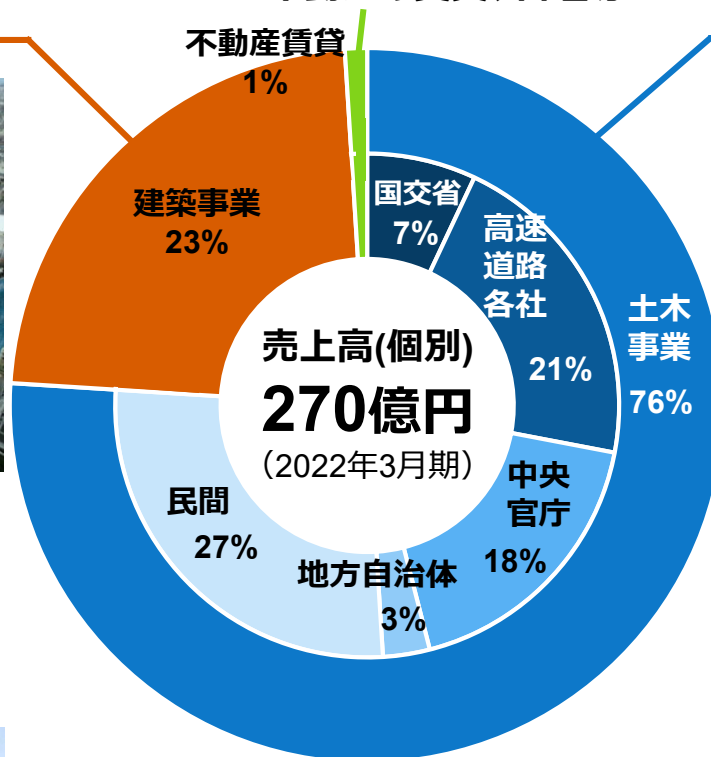


- マンション、オフィスビル
- 物流、スタジアム
- 耐震補強



不動産賃貸事業 1%

- 不動産の賃貸、管理等



土木事業 76%



- 橋梁 (道路橋、鉄道橋)
- タンク (容器構造物)
- マクラギ、メンテナンス



土木工事種別	売上高(百万円)	比率
新設工事	14,377	70.3%
床板取替工事	4,533	22.2%
維持補修工事	1,550	7.5%
合計	20,460	

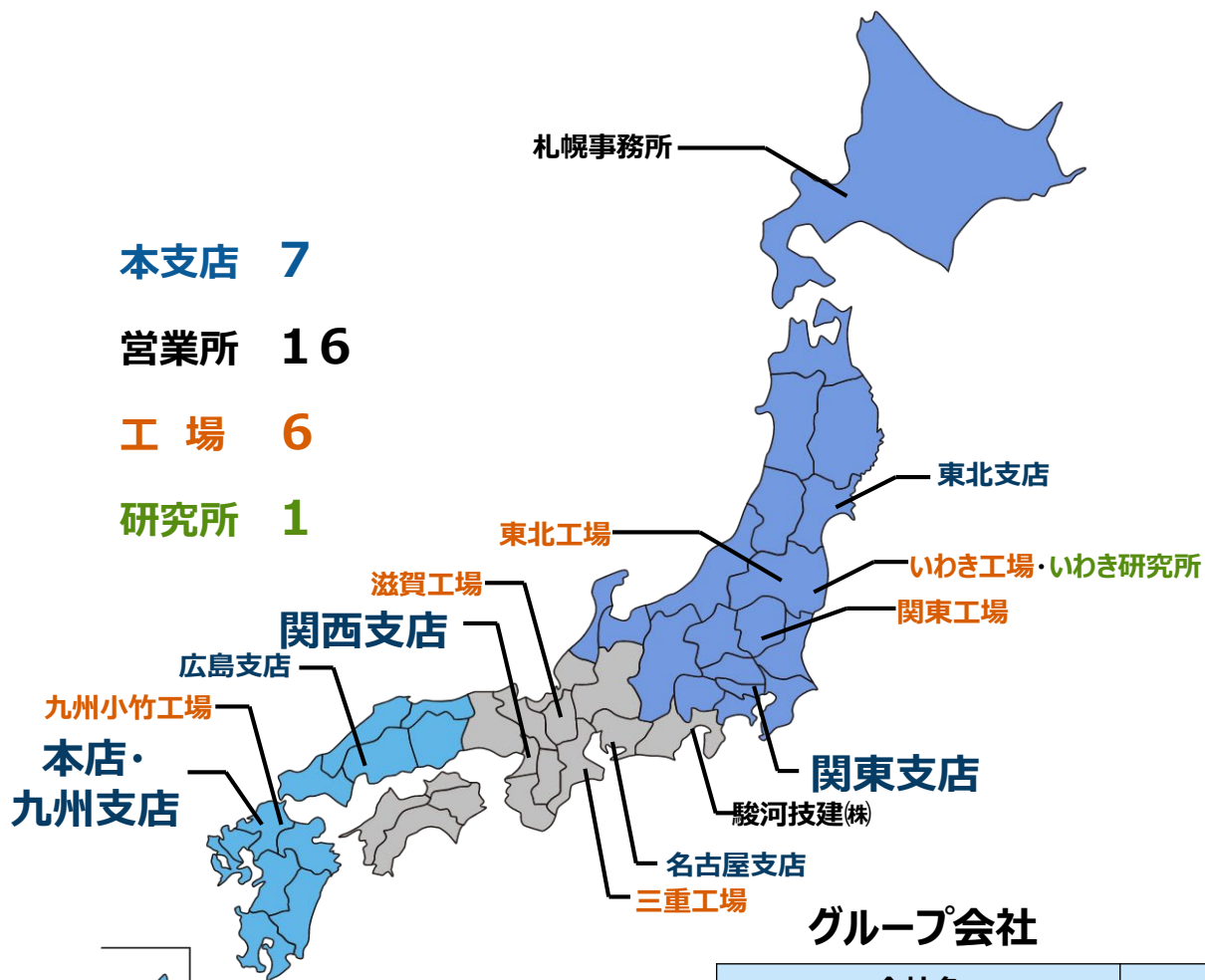
企業ネットワーク

本支店 7

営業所 16

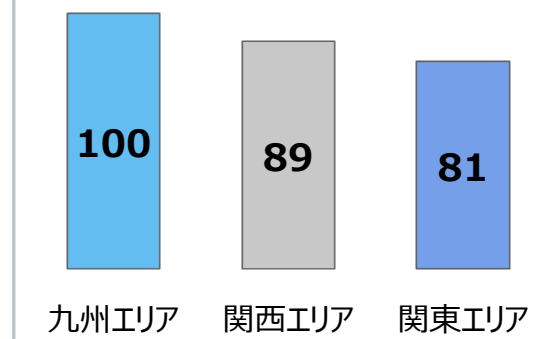
工場 6

研究所 1



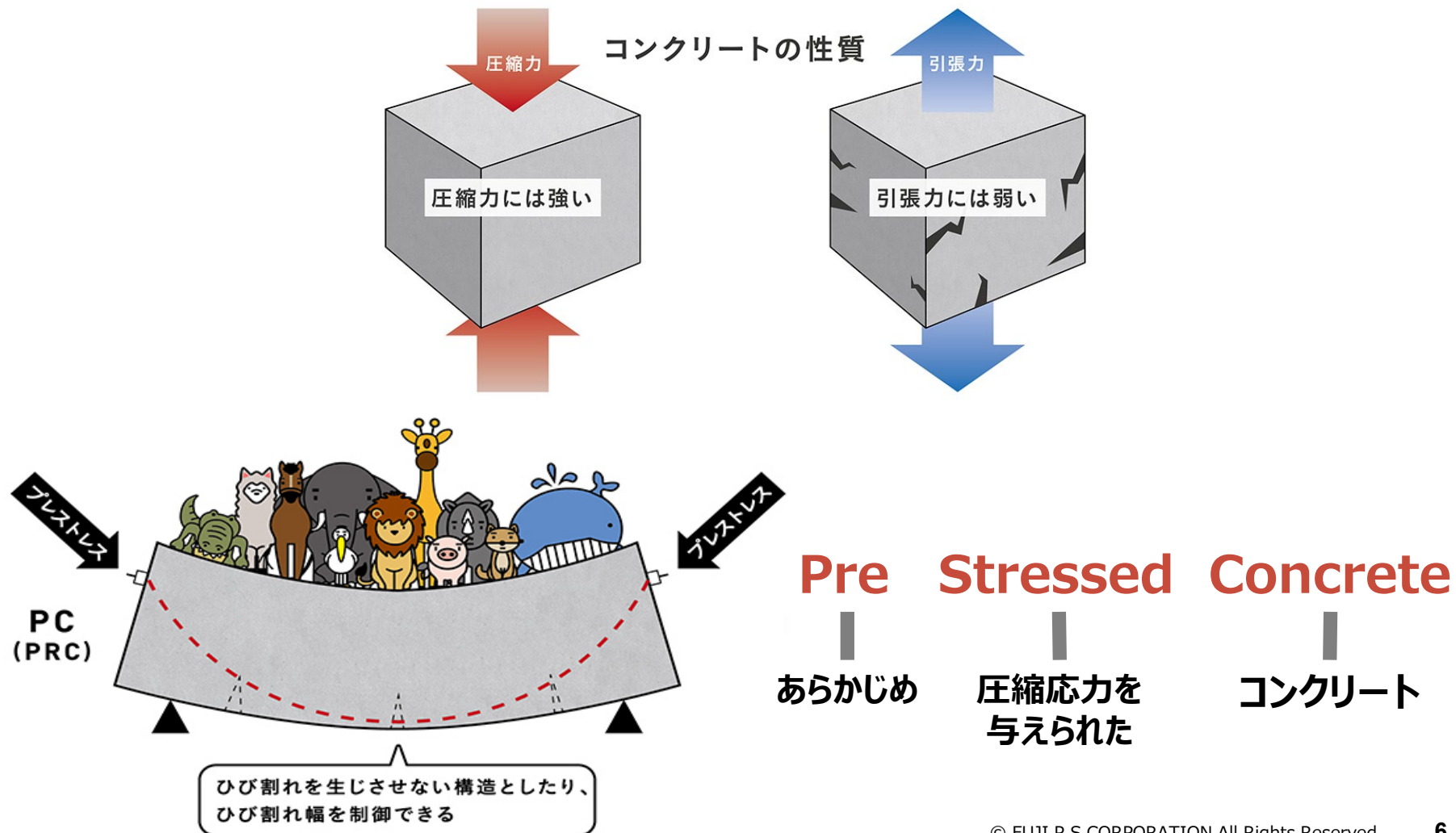
2022年3月期 地域別売上高

(単位：億円)



会社名	所在地	事業内容
駿河技建(株)	静岡県	コンクリート構造物の診断 および補修、補強等
(株)ピーエフ・ディー	福岡県	土木・建築の設計等
ミャンマー富士ピー・エス建設(株)	ミャンマー連邦共和国	建設コンサルタント等

プレストレストコンクリートの特性を活かした事業展開

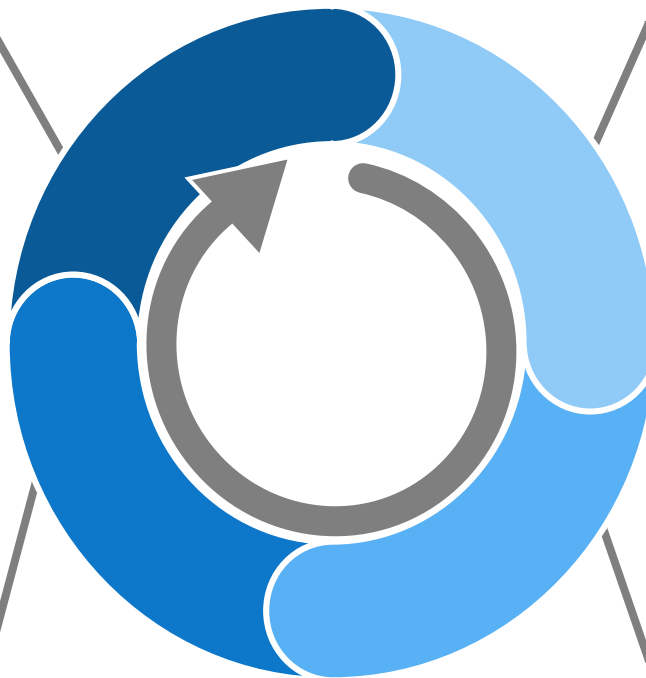


構造物の設計から新設・点検・維持補修・更新の施工まで一気通貫

更新



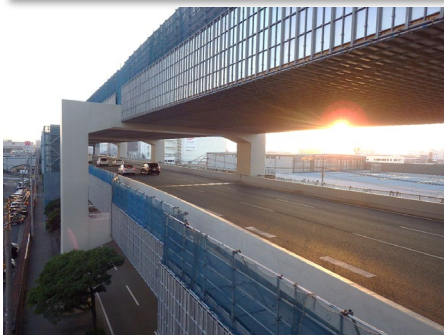
新設からメンテナンスまで



新設



維持補修



点検

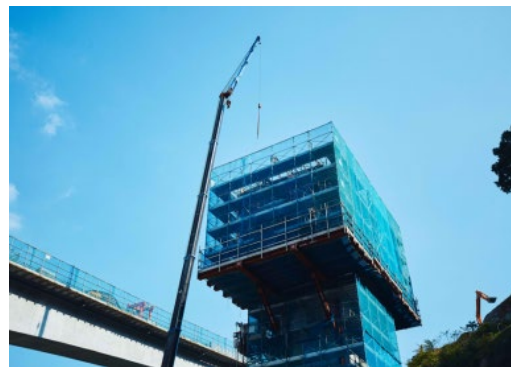


事業概要 - 土木事業

新設

工事名：令和2年度 河津下田道路Bランプ橋
PC上部工事

発注者：国土交通省 中部地方整備局



更新

工事名：令和3年度 宮崎自動車道（特定更新等）
池島川橋（上り線）床板取替工事

発注者：西日本高速道路株式会社 九州支社



維持補修

- ✓維持補修分野の更なる事業拡大を図るため、2021年10月に駿河技建(株)(静岡県静岡市)を子会社化。
- ✓人的交流による技術者の育成などを通じて、両社における高いシナジー効果が期待できる。

貝塚JCT～箱崎橋梁補修工事▶



◀箱崎～東浜補修工事

駿河技建(株)のご紹介

【事業内容】

- ✓ 橋梁の補修補強工事
- ✓ 構造物の調査診断、点検
- ✓ 耐震補強工事 等



西鉄天神大牟田線連立高架事業

- ▶ 同路線の約5.2kmの区間を高架化する工事が実施され、そのうち一部工事を当社が施工。2022年8月28日に線路の切り替えが行われた
- ▶ 慢性的に発生していた交通渋滞や踏切事故の解消が見込まれる



西九州新幹線建設事業

- ▶ 2022年9月23日に九州新幹線西九州ルートが開業し、当社は「東大川橋りょう（長崎県諫早市）」「彼杵川橋りょう（長崎県東彼杵町）」を施工した
- ▶ 西九州地区の生活・観光の両面での振興や発展に大きく寄与することが見込まれる



◀ 東大川橋りょう

彼杵川橋りょう ▶



耐震補強事業

- ▶ 工事中の騒音・振動・粉塵の低減
- ▶ 居室ない工事が不要で完全居ながら施工が可能
- ▶ マンションや学校の校舎などに採用される

▼ 公社榎塚台団地耐震改修その他工事(令和元年～令和2年)



プレキャストPC事業

- ▶ 工場で製作した部材を現場で組み立てて構造物を作る工法
- ▶ 環境にやさしく、耐震性に優れた建物の提供が可能
- ▶ スタジアムや学校の体育館などに採用される

▼ JASM新築工事 連続PCa大梁(熊本県)

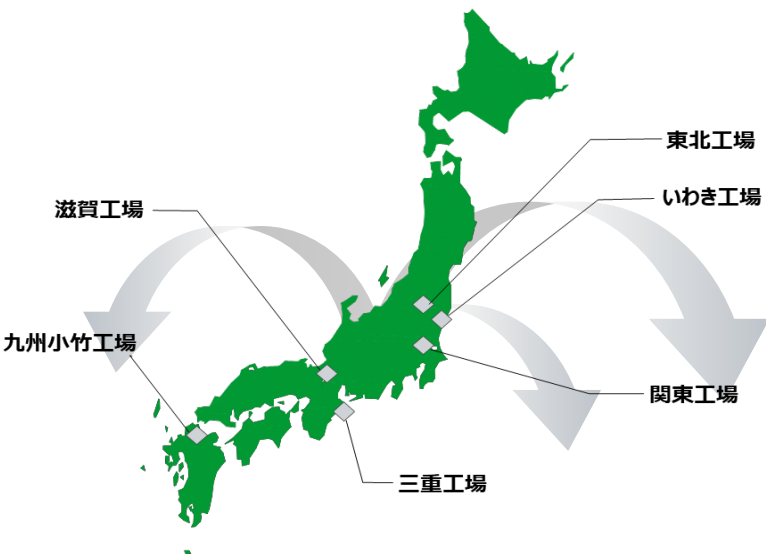


JASM…台湾の半導体受託製造大手TSMC社の子会社で同社熊本工場の運営を行う
『Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社』の略

事業概要 - 工場

PC技術を用いて、土木から建築まで多様化する時代のニーズに貢献

全国をカバーする工場生産体制



土木製品



プレキャスト桁橋(JIS桁)



プレキャストセグメント



プレキャストPC床版

建築製品



段床版



梁・柱



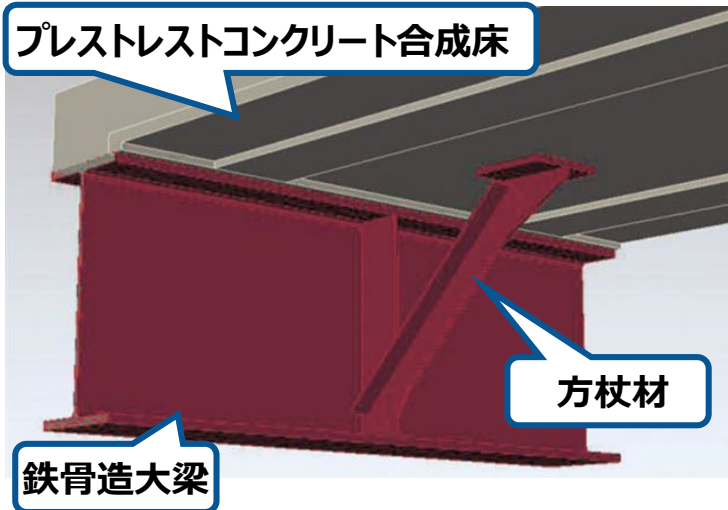
FR板

PC技術の更なる発展を目指し、研究・技術開発体制の充実を図る

2021年7月より、福島県いわき市にて「技術センターいわき研究所」が本格稼働



いわき研究所員 集合写真



開発した横補剛方法のパス図

いわき研究所の特徴

▶ 充実な設備

恒温恒湿下での実験及び科学実験が可能

▶ 地域との連携

【福島広域連携ラボ構想】

福島県内の教育機関との連携による技術開発
(日本大学工学部、福島工業高等専門学校)



- ✓ 生産性や品質の向上に繋がる技術開発
- ✓ 脱炭素技術など未来を見据えた技術開発








TOPIC 特許取得-建築新技術の開発

- ▶ 2022年12月に鉄骨造の大梁に対する新しい横座屈補剛方法を開発し特許を取得
- ▶ 従来の横補剛方法と比べて、、、
 - ①横座屈の防止 ②省力化による工期の短縮
 - ③設備空間の確保 ④意匠的な優位性 が期待される

業績

決算概要

(単位：百万円)

	2022年3月期 3Q(連結)	2023年3月期 3Q(連結)	前年同期比	
			増減額	増減率
受注高	29,444	 28,642	△802	△2.7%
売上高	19,857	 19,819	△38	△0.2%
売上総利益	3,222	 2,465	△757	△23.5%
営業利益	961	 91	△870	△90.5%
経常利益	984	 106	△878	△89.2%
当期純利益	694	 48	△646	△93.1%
繰越工事高	41,267	 51,026	9,759	23.6%

- ✓ 土木事業は、受注高は反動減したものの手持高は前期同水準を保持、売上高は一部現場にて工程遅延が発生したことにより減収。
- ✓ 建築事業は、新規受注は堅調、売上高は微増となるも売上総利益はコスト高騰の影響により減益。

2023年3月期 業績予想

受注高・売上高は増加予想
各利益は減益見込み

(単位： 百万円)	2022年3月期 (連結)	2023年3月期 (連結・予想)	前年同期比	
			増減額	増減率
受注高	37,691	↗ 38,325	633	1.7%
売上高	27,301	↗ 28,640	1,338	4.9%
売上総利益 (売上総利益率)	4,271 (15.6%)	↘ 3,935 (13.7%)	△336	△7.9%
営業利益 (営業利益率)	1,048 (3.8%)	↘ 725 (2.5%)	△323	△30.9%
経常利益	1,111	↘ 740	△371	△33.4%
当期純利益	775	↘ 465	△310	△40.0%
繰越工事高	42,203	↗ 51,888	9,685	22.9%

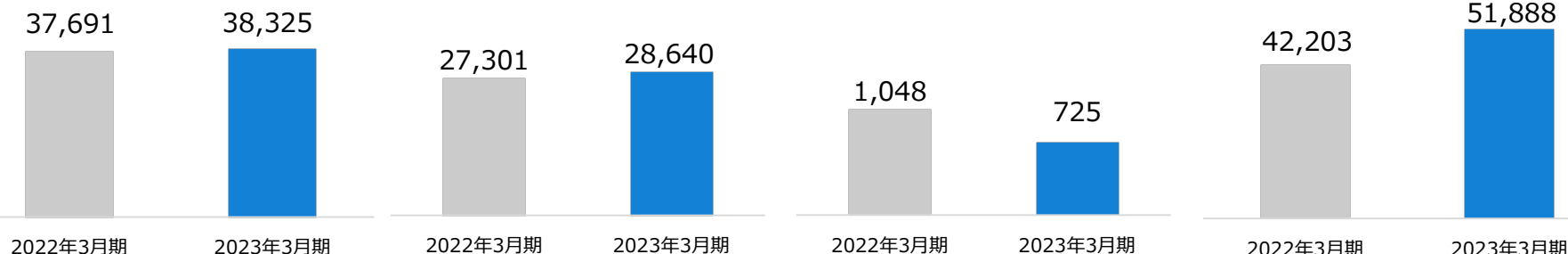
	2023年3月期 (連結・当初計画)
受注高	43,430
売上高	31,885
売上総利益 (売上総利益率)	4,520 (14.2%)
営業利益 (営業利益率)	1,255 (3.9%)
経常利益	1,255
当期純利益	840
繰越工事高	53,748

受注高

売上高

営業利益

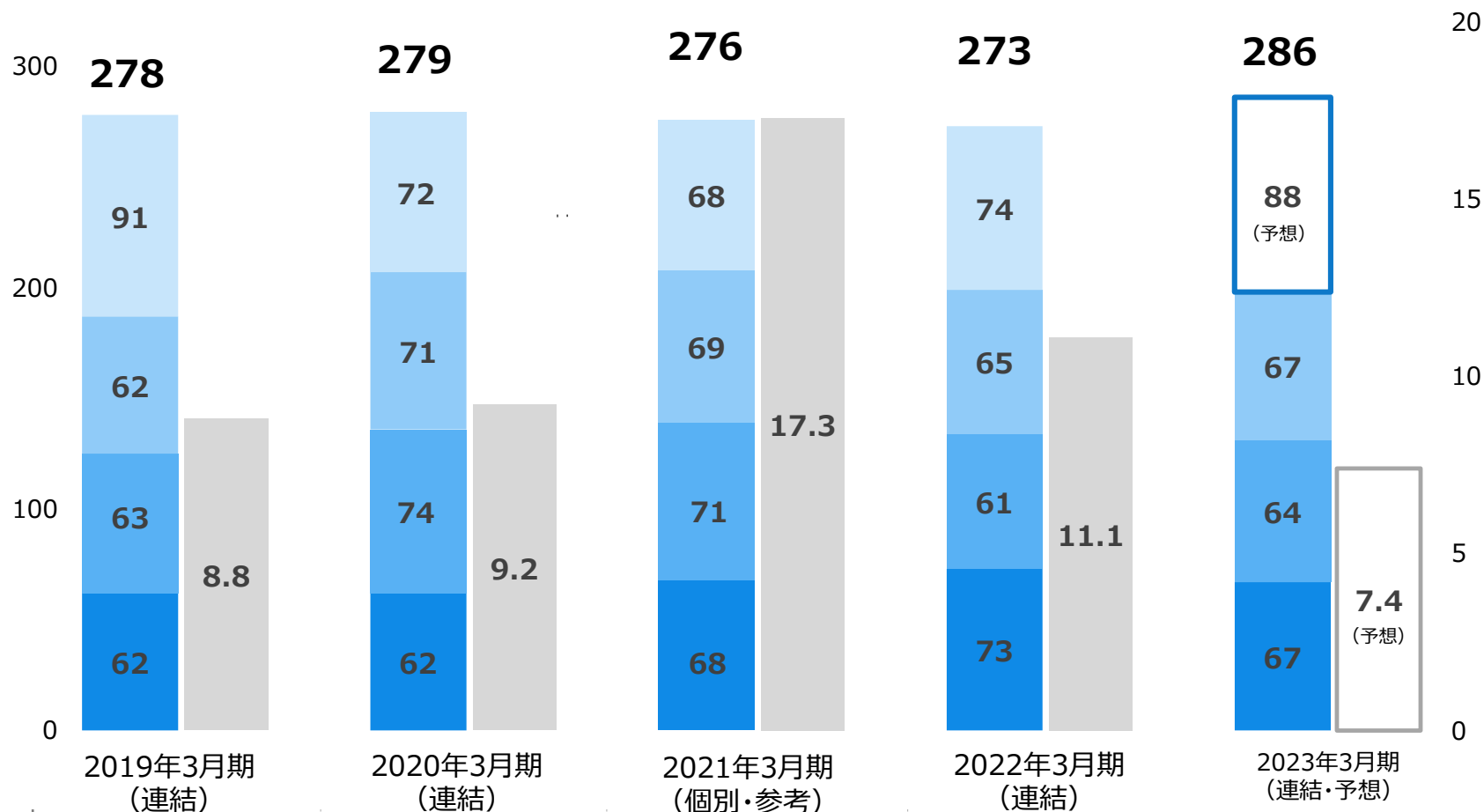
繰越工事高



5年間の推移

■ 4Q売上高 ■ 3Q売上高 ■ 2Q売上高 ■ 1Q売上高 ■ 経常利益

(単位：億円)



ROE

7.8%

8.1%

15.2%

8.1%

自己資本比率

35.4%

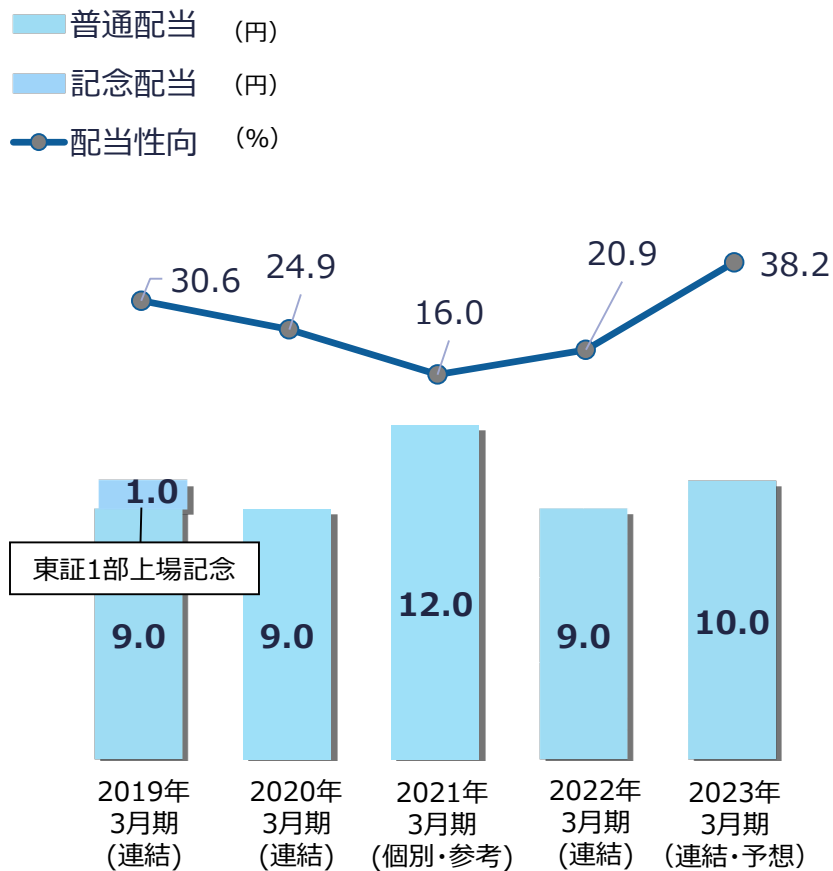
34.0%

37.2%

35.4%

配当方針

「財務体質の強化」と「積極的な事業展開に必要な内部留保の充実」を図りながら、安定配当を実施



株主優待

対象：1単元（100株）以上を保有する株主様
 （毎年9月30日現在の株主名簿による）

保有株式数	保有年数	内容
100株以上	1年未満	QUOカード 500円分
	1年以上	QUOカード 1,000円分
1,000株以上	1年未満	QUOカード 1,500円分
	1年以上	QUOカード 3,000円分

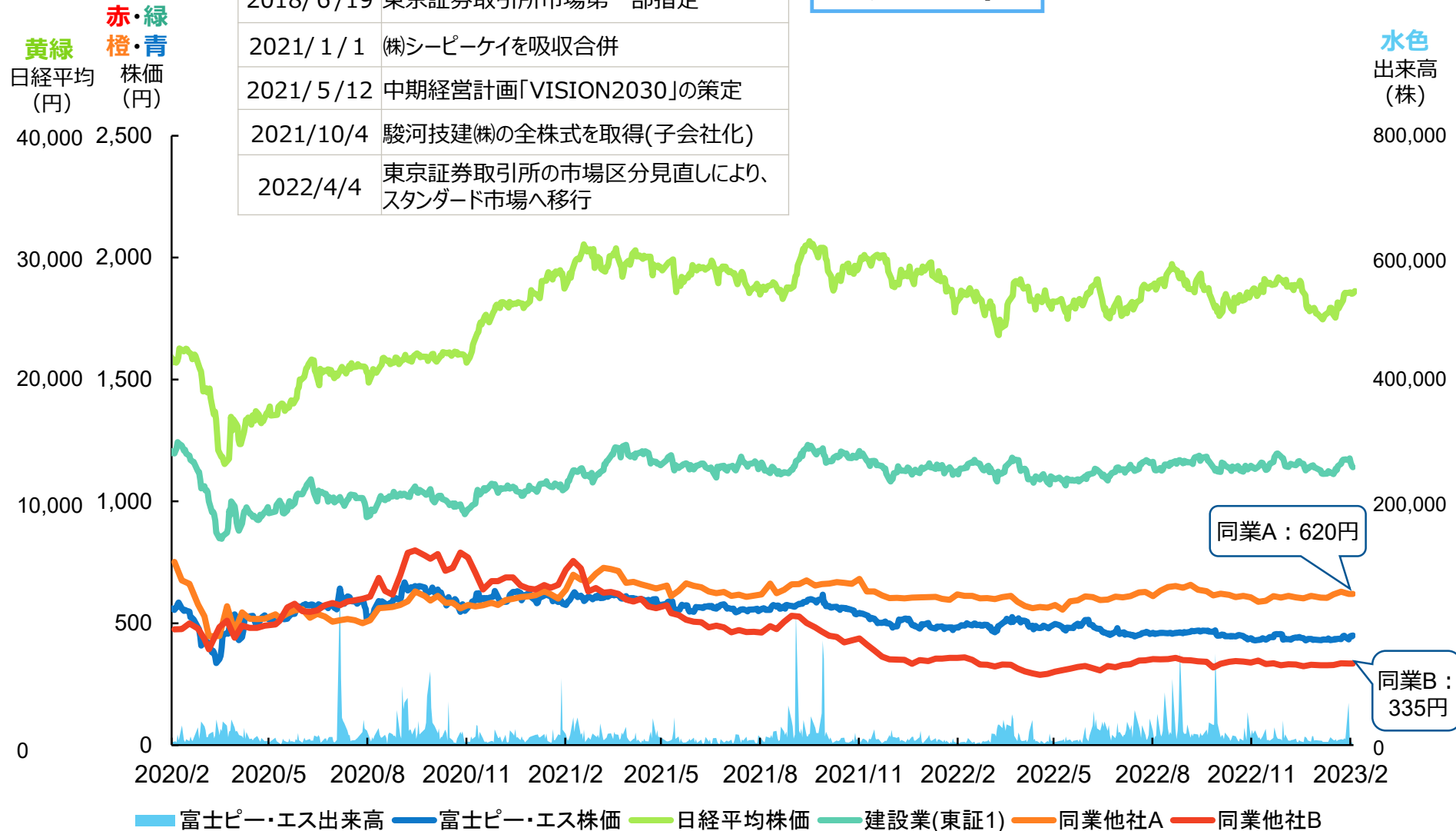


株価推移

年月日	イベント
2018/6/19	東京証券取引所市場第一部指定
2021/1/1	(株)シーピーケイを吸収合併
2021/5/12	中期経営計画「VISION2030」の策定
2021/10/4	駿河技建(株)の全株式を取得(子会社化)
2022/4/4	東京証券取引所の市場区分見直しにより、スタンダード市場へ移行

2023年2月3日時点

株価 **450円**



注1 : 2023/2/3 時点の株価、パーセンテージはグラフ始点(2018/4/1)を基準(100%)とした相対表示

注2 : 「建設業(東証1)」は、「旧東証一部に上場していた建設業企業」の96社が対象。そのうち現市場区分では、プライム83社、スタンダード13社。

出所 : SMBC日興証券

第5次中期経営計画 VISION2030

「新たな成長戦略に向けた経営リソース（ヒト・モノ・カネ）の拡充」

VISION2030の全体像

VISION2030が目指すゴール

価値を創造するエンジニアリング企業

顧客の要望にワンストップで応える企業

世界レベルのSDGs達成に貢献する企業

過去

2021年度
実績

売上高**273**億円
営業利益率**3.8**%

2022年度
予想

売上高**286**億円
営業利益率**2.5**%

2025のゴール

2030に向けた
通過点
売上高**350**億円
営業利益率**5**%

2030のゴール
売上高**450**億円
営業利益率**5**%

土木事業
建築事業
その他事業

更なる強化

新市場・新製品への挑戦と拡大

需要の着実な取り込み・新分野への挑戦
(防災・陸上風力・洋上風力分野)

「稼ぐ力」を蓄える期間

2025

急成長を成し遂げる期間

2030

2016
VISION2016

2020

成長のロードマップ

VISION2030

VISION2030の全体像

VISION2030の基本方針

事業方針

1. 2030年度の目標達成のため、2025年度までに高収益体質を実現し、経常的に経営資源を充実させていく体制・文化の構築している状態を目指す。
2. 2025年度に売上350億円超・営業利益率5%超を目指し、選別受注及び利益優先主義を継続する。
3. 人員増加施策だけでなく、生産性（1人当たり売上高）の向上を図るため、大規模な設備増強や現場負荷軽減のための仕組みづくりに注力する。

投資方針

1. 工場を中心に5年間で集中的な投資を行い、生産性の向上、製品売上比率の向上を図る。
2. 将来の工場製品売上の増加見通しに伴い、必要な時期において工場の生産能力の増強を検討する。
3. 継続的な研究開発を行うために売上高の0.3%を開発費に充てる。

財務方針

1. 財務の健全性を維持しながらも、積極的な投資を行う。
2. 将来、大規模な投資が必要になった場合は、保有資産の活用も視野に入れる。
3. ROEは7%超の維持を目標とする。

社員・株主還元方針

1. 毎年、基本給の約3%程度の社員還元を継続する（支給総額の1%想定）。
2. 配当性向20%超の維持。

VISION2030
にて再設定

VISION2016
における方針を維持

VISION2030 - 新たな取り組み

工場生産能力の改善

工場リニューアル

- ✓「工場を中心とした集中投資」により、全工場の製造能力を向上させる
- ✓第一弾として、九州小竹工場に総額約31億円の設備投資を実施し、老朽化が進んだ製造設備の刷新やバリアフリー化を目指す

生産能力増強の背景

▶ 働き方改革の促進

【課題】建設現場の慢性的な人手不足や従業員の高齢化

▶ 生産効率の向上

【課題】製造設備の老朽化、高速道路の更新需要増への対応



✓現場作業員の負担が少ないプレキャスト製品へ
幅広く対応する

✓全天候型への維新、ストックヤードの拡大によって
生産性の向上を図る

リニューアル前空撮写真



現況写真



完成イメージ図

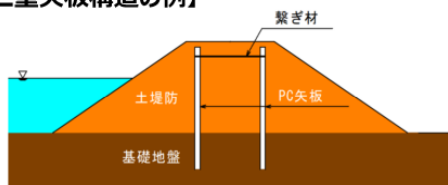


VISION2030 - 新たな取り組み

技術開発

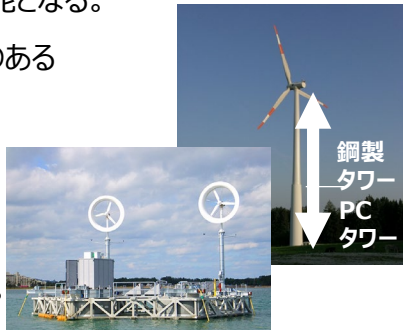
防災分野(PC矢板)の事業化

- ✓初年度(2021年度)では、基本モデルを用いた連成解析手法の確立に成功。
- ✓次年度(2022年度)では、様々な河川条件に対応できるよう解析技術の【二重矢板構造の例】高度化を図る。



PCを用いた風力発電(陸上風力、洋上風力)

- ✓陸上風力分野では、鋼製タワーをPCタワーでかさげることにより、風況改善が可能となる。
- ✓洋上風力分野では、安定性のあるコンクリート製浮体を製作。
- ✓風力発電は近年注目される再生可能エネルギーであるため更なる需要拡大が見込まれる。



洋上風力(浮体)

- ✓国内初となる洋上風力発電分野における産学官によるコンソーシアムが設立。
- ✓当社も当コンソーシアムに参画し、風力発電に関する技術の研究開発や人材育成の推進に取り組む。



プレキャストPC工法

- ✓九州小竹工場のリニューアルに伴い、事務所棟をプレキャストPC工法で自社施工を行う



◀ 現事務所棟

新事務所棟完成イメージ▶



VISION2030 – 新たな取り組み

DX

生産性向上を図るとともに働き方改革を実現し、2024年4月に施行される改正労働基準法
(建設業における時間外労働の上限規制)へ対応する

I. 生産の効率化

工場設備の自動化

- ▶ 「工場への集中投資」により、設備増強を進め、「省人・省力化」「生産性の向上」を実現する

FR板自動製造ライン(IM設備)▶



◀ワイヤー加工ロボット

現場の機械化

- ▶ 鉄筋結束ロボットの開発支援
- ▶ 床板取替用架設機を開発。都市部に近い高速道路への利用などに有効で、機械化施工による更なる生産性の向上を図る

鉄筋結束ロボット▶



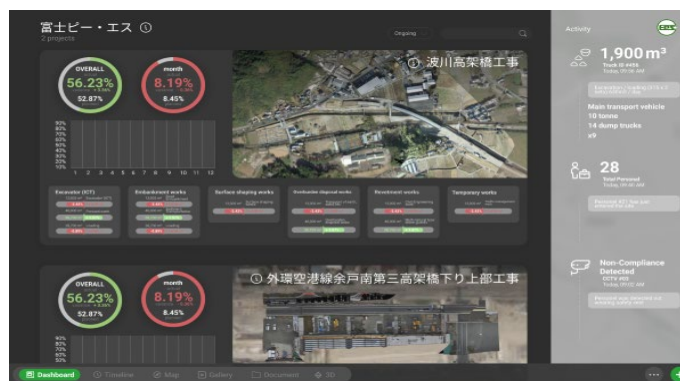
◀床板取替用架設機

VISION2030 – 新たな取り組み

II. 現場作業の負荷軽減

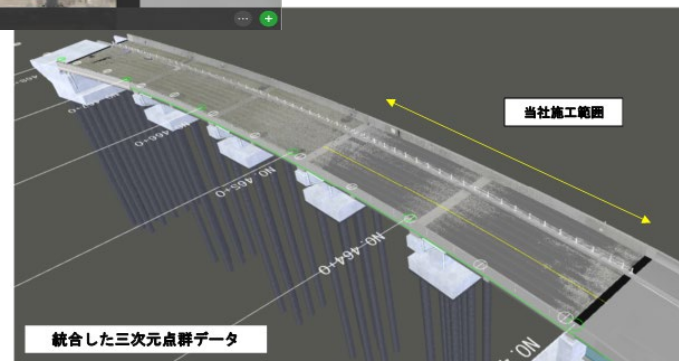
現場のデジタル化

- ▶ 自立飛行ドローン及びクラウドシステムを使用した現場巡視作業と工程進捗情報の共有 (PRISM: 官民研究開発投資拡大プログラム)
- ▶ 自立飛行ドローン計測データとCIMデータの活用
計測データとCIMデータを統合して、出来形の確認
- ▶ MR技術を用いた鉄筋工の施工管理 (試行)
鉄筋位置出し、組立状況の確認、配筋出来形の自動帳票作成により、「省人・省力化」を実現



◀ 工程進捗情報の管理画面 (現場・店社・発注者で共有)

ドローン計測データとCIMデータの結合▶



◀ MRデバイス装着状況



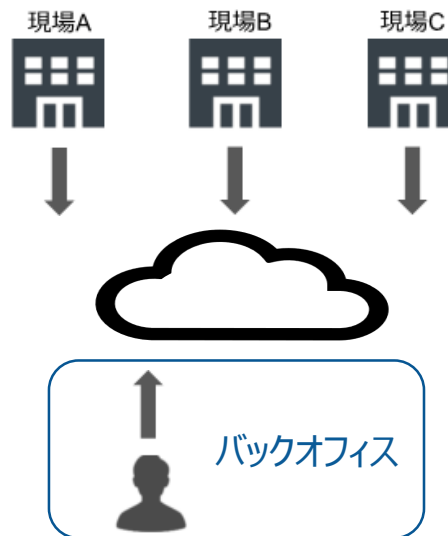
MRの映像▶



バックオフィス強化

- ▶ 現場勤務者の残業時間の削減・休日の確保を目指す
- ▶ 現場とバックオフィスを繋ぎ、現場支援ツールやデジタル技術を有効活用し、業務の補助を行う
- ▶ 2019年4月に施行された改正労働基準法による「時間外労働の上限規制」への対応

バックオフィス強化のイメージ



クラウドに一部の
業務情報を集約

技術を活用し、
業務を補助

Ⅲ.担い手確保

- ▶ 国籍や性別を問わず働ける環境づくりを行い、魅力ある建設業(リブランディング)の創出を図る
- ▶ デジタル技術の活用や残業時間の削減を図り、積極的に建設業の魅力を次世代の技術者へ情報発信を行う



VISION2030 – 新たな取り組み

社会課題への取り組み

SDGsの達成に向けて

- ▶ 「健康経営優良法人2022(大規模法人部門)」に認定される
- ▶ 事業活動を通じた取り組みにより、自治体の認証制度にて、認証を受ける
(福岡県、北九州市、福岡市)

「健康経営優良法人2022」ロゴ▶



◀登録証 (北九州市、福岡市)

カーボンフリーの実現に向けて

- ▶ 当社の建築製品であるFR板の低炭素化を図る
- ▶ 当社工場のCO2排出量を定量的に算出し、CO2排出量低減策の策定を目指す

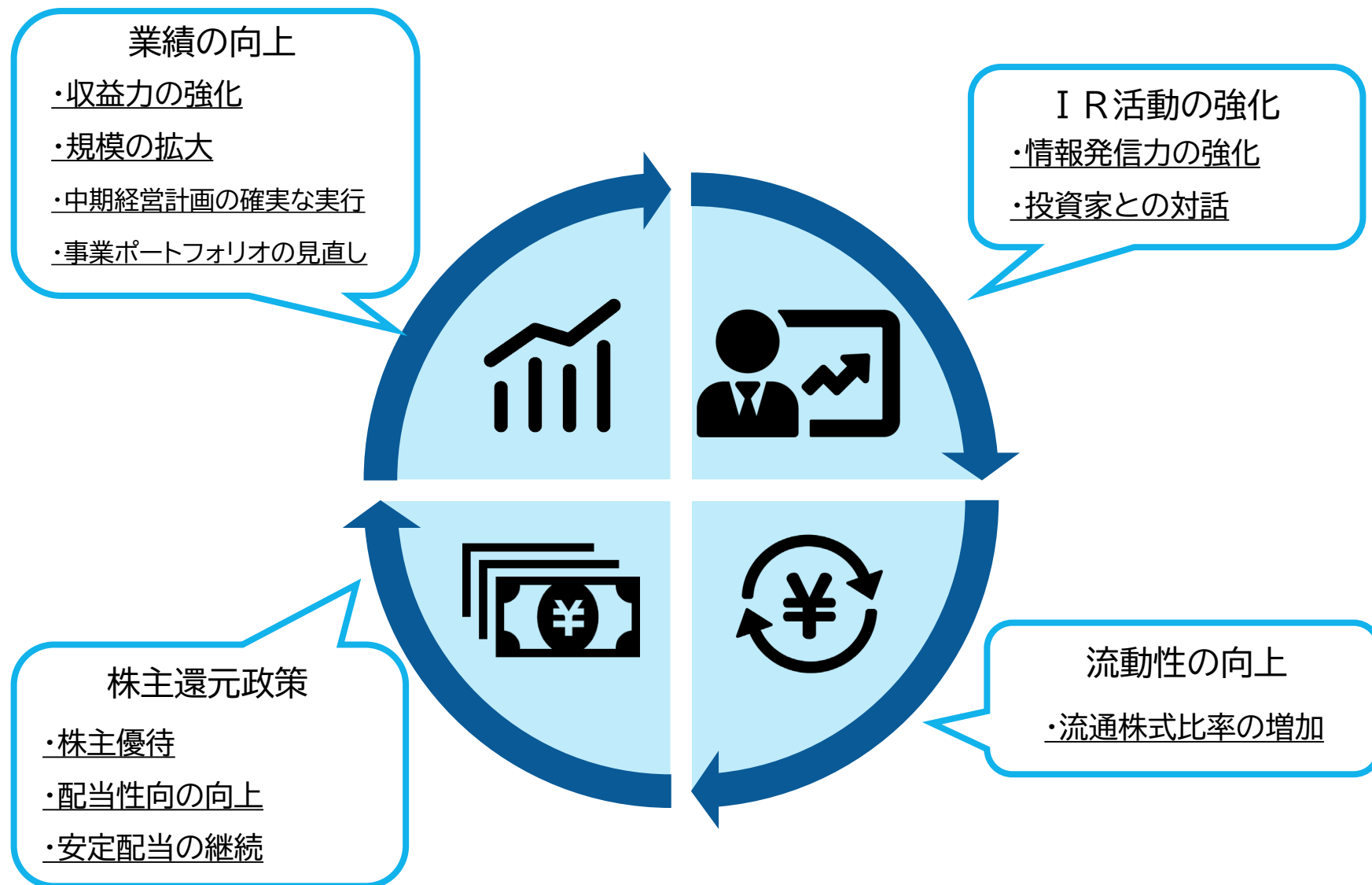
当社オリジナルSDGsロゴを作成▶



Bridge to the future

VISION2030 - 新たな取り組み

資本政策(株式市場における評価向上のための施策)



《注意事項》

本資料は情報提供を目的としており、当社株式への投資を推奨するものではありません。

また、将来の業績等に関する記述が含まれておりますが、これらは当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により変動する可能性があります。

投資にあたりましては、ご自身の判断により行って下さい。

本説明会に関するご意見やお問い合わせにつきましては、I R 担当までお願いいたします。

I R 担当 経営企画室

T E L : 092-721-3473 FAX : 092-721-3460

メールでのお問い合わせは当社ホームページよりご連絡ください。

U R L : <https://www.fujips.co.jp>